

# ワシントン大学看護学部の博士課程における高度実践看護師 教育について：平成27年度在外研究報告

片倉 直子

神戸市看護大学

キーワード：高度実践看護師，ナースプラクティショナー，在宅看護専門看護師課程，精神科訪問看護

## Education Program of Doctor of Nursing Practice in University of Washington School of Nursing: 2015 Foreign Residency Research Program Report

Naoko KATAKURA

Kobe City College of Nursing

Key words: Advanced Practical Registered Nurse, Nurse Practitioner, Home Care Nursing Clinical Nurse Specialist, Home Care Nursing for Clients with Psychiatric Disorder.

### はじめに

神戸市看護大学と学術協定を結んでいるワシントン大学看護学部へ、平成27年度在外研究員として訪問する機会を得た。本稿では、下記の内容について報告する。

1. 在外研究の概要
2. 米国における高度実践看護師の概要
3. University of Washington School of Nursing の Doctor of Nursing Practice (DNP) 教育課程について
4. 本学大学院在宅看護専門看護師課程に取り入れたこと

#### 1. 在外研究の概要

この度の在外研究の目的は、本学の大学院在宅看護専門看護師課程で利用可能な教育プログラム、アセスメントや教材を、ワシントン大学看護学部の Psychiatric and Mental Health Nurse Practitioner (PMHNP) の教育課程を通して検討することであった。本学大学院は、2016年4月より、全国で11番目の在宅看護専門看護師課程（38単位）を開設した。その専攻分野専門

科目として、「終末期ケアに関する看護」と、「多問題・困難課題に関する看護」を提供しており、後者は精神科訪問看護を学ぶことになっている。

精神科訪問看護が訪問看護ステーション（ステーション）から提供されるようになってきたのは、厚生労働省の「精神保健医療福祉の改革ビジョン（2002）」がきっかけである。これにより、精神病床の長期入院患者の退院・社会復帰がすすめられ、地域の受け皿の一つとしてステーションが期待されてきた。ステーションによる看護は、元来、要介護高齢者へのケアの提供のために1992年から開始されており（日本訪問看護財団）、精神科訪問看護は極めて新しい分野なので、これを担当する看護師の研修や教育は重要である。そこで、本学大学院の在宅看護専門看護師課程では、その教育内容を、これまでの研究の蓄積を生かした斬新なものにしたいと考えていた。

在外研究期間は、平成28年3月2日（水）から3月26日（金）までで、受入教員はPMHNP教育をしている上月頼子先生である。上月先生自身がPMHNPであり、教育研究を大学で行いながら、週1回クリニックで精神疾患をもつ人々へケアを提供している。

表1 面会した教員や臨床家

氏名	肩書
Dr. Yoriko Kozuki	Associate Professor, PMHNP (精神看護学)
Dr. Karen Schepp	領域長・Professor (精神看護学)
Dr. Ardith Doorenbos	Professor (緩和ケア)
Dr. Marie Ann Brown	Professor, Family Nurse Practitioner (NP協会の幹部)
Dr. Trez Buckland	Clinical Assistant Professor
Lauren Simonds, MSW	National Alliance on Mental Illness (NAMI), Washington Executive Director
Dr. Noel Chrisman	Professor (Community Health Nursing)
Dr. Jenny Tsai	Associate Professor (Community Health Nursing)
Dr. Elaine Walsh	Associate Professor (精神看護学・学部新カリキュラム委員長)

ワシントン大学看護学部における私の身分は、3週間のShort-term visitorであった。研修費用は1日5000円で、学内の無線LANが自由に使用できた。本来なら研究室は与えられないが、Psychosocial & Community Health 領域長のSchepp教授のご厚意により、領域内の部屋を借りることができ、快適な在外研究生活であった。

#### 1) 面会した教員や臨床家

在外研究期間に面会した教員や臨床家は表1のとおりである。上月先生とDr. Scheppに、PMHNPや大学院教育における精神看護学の研究等についてインタビューをした。また、本学の大学院在宅看護専門看護師課程において、終末期ケアを導入していることから、Dr. Doorenbosらに、緩和ケア認定看護師課程の内容をインタビューした。

あわせて、NPの役割委譲に関するこれまでの取り組みは、Dr. Brownからインタビューをした。

Dr. BucklandとSimonds氏は、National Alliance on Mental Illness (NAMI)の幹部であり、両氏よりその活動について説明をうけ、見学する機会を得た。Dr. Bucklandは教育者であったが、自身の息子が統合失調症を患ったことをきっかけにDr. Scheppのもとで研究を行い、看護学博士を取得している。現在はNAMIの活動の他、非常勤で同大学看護学部の学部教育を担当している。

本学の地域看護学の教員からの依頼があり、Community Health Nursingの学部・大学院教育につい

表2 視察および参加した場所とその内容

場所	内容
DNPプログラムの講義聴講	・DNPの共通科目：Health Policy ・PMHNP専門科目：Older Adult Mental Health Assessment and Intervention Neurobiology of Substance Abuse
DNP実践研究発表会参加 (Capstone)	研究コースの学位論文とDNPの研究との違いを学ぶために参加
Palliative Care Conference	ワシントン大学と共同している病院で行われる、終末期医療に関する早朝カンファレンス
Advanced Practice Conference 2016 Schedule Meeting	Advanced Practice Registered Nurse (APRN) カンファレンスのプログラムと講師の決定
Appreciate Living Groups	Dr. Bucklandが行っているNAMIの慢性精神疾患をもつ成人へのサポートグループ
Evergreen Home Care Service	Evergreen Hospitalに併設の在宅ケアサービス事業所 看護師との訪問に同行
Simulation Lab	学部生の技術演習室を見学

て、Dr. ChrismanおよびDr. Tsaiにもインタビューを行った。また、最近学部のカリキュラムが新しくなったので、カリキュラム編成委員長を務めたDr. Walshに、そのプロセスと内容をインタビューした。ワシントン大学に対する私の興味や関心を話していると、上月先生が次々に適任の先生方にインタビューの了解をとってくださり、多くの方々に会うことができた。

#### 2) 視察および参加状況

在外研究期間に視察および参加した場所は表2のとおりである。DNPの教育課程を学ぶために、講義を聴講し、また、DNPにおける実践研究の公開発表会であるCapstoneに参加した。毎週火曜日8時から行われるPalliative Care Conferenceや、今年度のAdvanced Practice Conferenceのスケジュール調整会議にも参加した。あわせて、NAMIの精神疾患をもつ成人へのサポートグループへの参加、在宅ケアサービス事業所への同行訪問の機会を得た。学部教育の状況を知るために、学部生が使用している技術演習室も見学した。

#### 2. 米国における高度実践看護師の概要

ここでは、米国におけるNurse Practitioner (NP)を含む高度実践看護師に関する概要を説明する。

##### 1) 米国の高度実践看護師

米国には、4種類の高度実践看護師 (Advanced Practical Registered Nurse : APRN)の資格がある。すなわち、認定麻酔看護師 (Certified Nurse Anesthetist: CNA)、認定助産師 (Certified Registered Midwife: CRM)、クリニカルナーススペシャリスト (Clinical Nurse Specialist :

表 3 NP の分野の種類

名称	備考
Family Nurse Practitioner	
Adult Nurse Practitioner	
Pediatric Nurse Practitioner	
Gerontological Nurse Practitioner	
Adult-Gerontology Primary Care Nurse Practitioner	
School Nurse Practitioner	認定終了
Adult Acute Care Nurse Practitioner	
Neonatal Nurse Practitioner	
Pediatric Acute Care Nurse Practitioner	
Adult Gerontology Acute Care Nurse Practitioner	
Adult Psychiatric-Mental Health Nurse Practitioner	
Family Psychiatric-Mental Health Nurse Practitioner	Across the Lifespan
Emergency Nurse Practitioner	Specialty NP

CNS)、ナースプラクティショナー (Nurse Practitioner : NP) である<sup>1</sup>。American Nurses Association (ANA : 2013) によれば、その労働人口は、看護職全体が2,816,150人であり、そのうちNPが113,370人 (4.0%)、CNAが35,430人 (1.3%)、CRMが5,460人 (0.2%) である。CNSに関しては、National Association of Clinical Nurse Specialists (2016) が69,017人 (2.6%) と報告している。したがって、NPの労働人口がAPRNの中で最も多い。CNAは、1889年、医師のメイヨーが看護師に人工呼吸器管理を訓練したのが最初で、1945年にAmerican Association of Nurse Anesthetistが、認定試験を始めている。CRMは、1942年から大学院教育が始まっている。CNSは、1954年に、ヒルガレード・ペプロウが、精神医学分野の最初の大学院教育をラトガーズ大学に設立している。NPは、1965年、小児医学分野の教育を、コロラド大学ではじめている。

NPの分野を表3に示す。現在、特別枠も含めて13種類のNPの資格がある。CNSの分野を表4に示す。School NP、Home Health CNS、およびPublic/Community Health CNSは、認定制度がなくなっていた。1990年代、我が国は米国の訪問看護から情報を得、また同国のCNS向けのテキストから学ぶことが多かったが、最近

1 APRNの各日本語表記は、日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会の提言「高度実践看護師制度の確立に向けて－グローバルスタンダードからの提言－」の表現を使用している。

表 4 CNS の分野の種類

名称	備考
Adult Psychiatric-Mental Health Clinical Nurse Specialist	
Child/Adolescent Psychiatric-Mental Health Clinical Nurse Specialist	
Adult Health Clinical Nurse Specialist	
Pediatric Clinical Nurse Specialist	
Adult-Gerontology Clinical Nurse Specialist	
Gerontological Clinical Nurse Specialist	
Pediatric Clinical Nurse Specialist	
Home Health Clinical Nurse Specialist	認定終了
Public/Community Health Clinical Nurse Specialist	認定終了

そうした資料が廃番になっていた理由がわかり残念であった。

## 2) APRN教育のDNPへの移行

APRN教育のうち、まずNP教育がますます高度化し、American Association of Colleges of Nursing (AACN) は、2004年に高度化した看護実践に携わる看護師に対して博士レベルの教育を行い、博士の学位をもつNP (DNP) を育成することを推奨し始めた (ACCN : 2004)。APRNの教育が、修士課程から博士課程に移行された目的を、ACCN (2006) は下記のように述べている。すなわち、1) 急増する複雑な実践、教員およびリーダーシップの役割のために必要とされる先進的能力の開発、2) 看護実践および患者への成果を改善するために強化した知識、3) 実践とヘルスケアの提供を改善するために強化したリーダーシップ技術、4) 資格を得る履修単位および時間、プログラムのさらなる適合、5) 先進の実践的知識を必要とするが、高い研究能力を要しないか、望まない人々 (例えば、実践上の教員) のための高度な教育資格の供給、6) 看護の背景がないことから看護へ個々をひきつけるための強化した能力、7) 実践教育のための教員のさらなる供給、である。このような背景のもと、修士課程で行われていたAPRN教育を、3年間の博士課程で行う流れとなり、ACCNは、2015年までにすべてのAPRN教育をDNP教育課程にする目標を掲げた。2016年9月現在、ACCNのホームページによれば、264のDNP教育課程があり、全米の48州とコロンビア特別区に存在する。また、60か所が、現在その準備をすすめている (ACCN, 2015)。

ここで特筆したいのは、DNP教育課程は臨床における学位であることから、看護学部を卒業した後、進

表5 DNP Essentialsの項目

Essentials I	実践への科学的基盤
Essentials II	質の改善とシステム思考への組織的、システムのリーダーシップ
Essentials III	根拠に基づく実践のための臨床的学問と分析的方法
Essentials IV	ヘルスケアの改善と変化のための情報システム/技術および患者ケア技術
Essentials V	ヘルスケアの提言のためのヘルスケア政策
Essentials VI	患者および集団の健康成果のための学際的協働
Essentials VII	国家の健康レベルの改善のための臨床的予防と公衆衛生
Essentials VIII	高度な看護実践

表6 UW SoNのDNP教育課程の専門分野

専門分野名	備考
Adult Gerontology Acute Care Nurse Practitioner	
Adult Gerontology Clinical Nurse Specialist	
Adult Gerontology Primary Care Nurse Practitioner	
Community Health Nursing	ライセンス取得なし
Family Nurse Practitioner	
Neonatal Clinical Nurse Specialist	
Neonatal Nurse Practitioner	
Nurse-Midwifery	
Pediatric Clinical Nurse Specialist	
Pediatric Nurse Practitioner	
Perinatal Clinical Nurse Specialist	
Psychiatric Mental Health Nurse Practitioner	
Post-Master's program	

学できるということである。研究に関する博士の学位取得は、修士の学位を得てから博士課程に進学する必要があるし、その専門分野が看護学（あるいは看護職）でなくても、看護学博士は取得できる。したがって、研究に関する博士と臨床における博士の学位とは、一線を画している。

### 3) DNP教育課程に含まれる内容

ACCN (2006) によれば、DNP教育課程にはAPRNの分類や専門分野にかかわらず、DNP Essentials IからVIIIを含まなければならない(表5)。その上で、特定の専門分野の内容について、DNP教育課程の大学院生に実践と講義とを提供する。専門分野ごとの役割のために必要とされる能力、内容と実習は、全国専門看護組織によって詳細に示されている (ACCN,

表7 DNP Core Course

科目名	単位	備考
Perspectives on Implementing Research in Advanced Nursing Practice	3	
Leadership Communication & Professional Identity	4	
Wellness, Health Promotion & Disease Prevention	3	
Nursing Inquiry to Support Evidence-Based Practice	5	
Health Politics and Policy	3	
Social Determinants of Health & Health Equity	3	
Appraisal & Translation of Evidence for Practice	5	
Foundations of Health Systems and Health Economics	3	
Methods of Program Evaluation & Quality Improvement	4	
Clinical Practicum I	4	実習
Clinical Practicum II	5	実習
Clinical Practicum III	6	実習
Practice Doctorate Project: Capstone	3	研究

2006)。

### 3. University of Washington School of NursingのDNP教育課程について

現在、University of Washington School of Nursing (UW SoN) にあるDNP教育課程の専門分野を表6に示した。Community Health Nursingは、全米的に資格はなく、またUW SoNには修士課程と博士課程の両方にあり移行期である。米国には日本の保健師に該当する資格がなく、我が国の保健センターにあたるCommunity Health Centerでは看護師が貧困層の集団教育等を行っている。大学院におけるCommunity Health Nursingの教育は、その看護師のリーダー育成を目指している。したがって、後に述べるAdvanced Practice Nursing (APN) Core Courseに含まれる科目ではなく、集団への教育等の独自の科目だてをしている<sup>2)</sup>。

次に、DNP教育課程の基本的な教育内容の構造と内容を、PMHNPの教育課程にもとづき説明する。UW SoNのDNP教育課程は、主にDNP Core Course、APN Core Course、Track and Shared Track (専門科目)の3群からなる。各群について説明する。

#### 1) DNP Core Course

DNP Core Courseは、DNP教育課程における共通科目群である。その科目立ては表7のとおりである。こ

2) 各専門領域の具体的な科目立ては、UW SoN ホームページ <https://nursing.uw.edu/programs/> からみることができる



表 8 PMHNPにおけるTrack and Shared Track

科目名	単位
Psychiatric Mental Health Assessment	3
Interpersonal Therapeutics – Current Perspectives	3
Neuroscience and Mental Health – Epigenetic Perspective	3
Older Adult Mental Health Assessment and Intervention	2
Psychopharmacology and Biological Interventions	3
Mental Health Management and Intervention	3
Infant & Child Mental Health Assessment and Intervention	3

の科目のうち、Health Politics and Policyのクラスを1回聴講した。1学年200人近くのDNP教育課程の大学院生が、それぞれの専門性に合わせて、ワシントン州の健康政策に関する調査をして今後の課題を5分でまとめて発表した後、質疑応答をしていた。マリファナ利用の減少、ホームレスの医療提供であるmobile medical van、自殺に対する話題などもあり、米国の健康課題を目の当たりにする内容だった。Practice Doctorate Project- Capstoneについては、後に述べる。

#### 2) APN Core Course

この科目は、我が国のCNS教育課程の共通科目にもある、いわゆる「3P」にあたる。高度実践看護師に必修の科目であり、内容は、Lifespan Physiology & Pathophysiology (4単位)、Comprehensive Health Assessment (3単位)、Advanced Pharmacology (3単位)である。

#### 3) PMHNPにおけるTrack and Shared Track

ここでは、PMHNPのTrack and Shared Track (専門科目)について説明する。表8に科目立てを示した。このうち、Neuroscience and Mental Health – Epigenetic Perspective およびOlder Adult Mental Health Assessment and Intervention のクラスを1回ずつ聴講した。前者では、薬物中毒の作用機序やDiagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders (DSM-5)を使用した診断基準等を詳細に講義していた。後者では、老年学の教授が一連の教育を行っていた。聴講した日は Semesterの最終週であったため、大学院生が先行研究論文を1本使って「高齢者の疾患やケアについて同級生に説明をする」というプレゼンテーションをグループで行っていた。要介護高齢者に使用できる介護用品や、絵画療法など、その内容は多岐にわたっていた。

上月先生は、Psychiatric Mental Health Assessment およびMental Health Management and Intervention等を担当しており、DSM-5の他、エビデンスが確立されて

いるアセスメントを使用したうえで、治療計画を立てていくことを教えていた。また、米国では、統合失調症は、陽性症状や陰性症状より認知機能障害がその症状の中核と考えられており、10歳代でその兆候をとらえて投薬や認知行動療法を始めている。私も、認知機能障害が統合失調症の症状にはあり、Social Skills Training等を行っていることは知っていたが、米国のこのとらえ方に関して至極納得した。なぜなら、訪問看護を提供していた時に、段取りがわからず混乱して日常生活技能ができなかったり、対人関係において認知のゆがみがある利用者に出会うことが多く、それらへのケアが中心だったからである。しかし、認知機能の程度をアセスメントツールを使用して測定し、そこから看護計画を考えていくという訓練を受けたことがなかった。我が国の訪問看護においても、統合失調症を持つ利用者に認知機能障害の評価をしたうえで、何に彼らが困っているのかを予測しながらケアを提供することは、意味のあることと思われた。

また、NPは処方権を有するので、その内容に関する教育の占める割合が大きい。NP教育課程が終了してからも、2年おきの資格更新の際、45クレジットのうちの15は処方に関する研修が含まれていなければならない。我が国は、精神医療において多剤併用する傾向があるため、処方権がなくても、内服薬の作用機序や処方に関する教育も重要と思われた。

#### 4) Practice Doctorate Project- Capstone

在外研究期間、幸運なことに、DNP教育課程の修了がきまった大学院生の実践研究発表会であるCapstoneに参加することができた。DNPの研究能力としては、看護実践を導く中範囲レベルの理論や概念の活用ができることが求められている (ACCN, 2006)。ワシントン大学看護学部のDNP教育課程では、教員が臨地にDNPの研究課題になる題材を依頼し、実践研究の訓練をしている。

研究は、先進的な教育プログラムと従来のそれとを、単変量の統計分析を用いて評価した研究や、臨床実践の課題に対して使用可能な測定方法を提案して、その活用可能性を実践家へのインタビューで評価する等であった。いわゆる研究に関する博士課程とは異なり、極めて実践的な内容であった。

これは私個人の感想だが、本学の修士論文とCNSの課題研究とは、その労力や内容を考えた時に、あまり違いが感じられない時がある。研究者も高度実践

看護師も同等の研究能力を有することは理想的であるが、ある程度研究に求める目標や基準を、CNSとして実践に貢献できる、中範囲レベルの理論や概念の活用にしてもいいのかもしれない。

#### 4. 本学大学院在宅看護専門看護師課程に取り入れた こと

この度の在外研究を経て、下記の点について本学大学院在宅看護専門看護師課程、特に精神科訪問看護の教育に取り入れたいと考えている。

##### 1) 統合失調症の認知機能障害に焦点をあてる

先述したとおり、統合失調症の認知機能障害に関する考え方は、訪問看護の利用をしている慢性統合失調症をもつ人々に、極めてあてはまる。帰国してから、最近の医学系の雑誌やテキストに、統合失調症の認知機能障害の種類やアセスメント、リハビリテーションに関する研究や見解などの知見をみつけた。今後は、これらの知見から、訪問看護に取り入れられそうな内容を検討し、精神科訪問看護に関する教育に取り入れたい。

##### 2) 診断基準・薬剤の知識を身につける

訪問看護を提供していた時、医師の診断や処方を利用者にあっているのか疑問に思うことがしばしばあった。訪問看護は、利用者の生活状況を通して情報収集が可能なことから、DSM-5等の診断基準の知識を利用して、医師へ情報提供し、治療方針に関与する必要がある。また、処方権はないものの、診断や利用者の苦痛をふまえた薬物をアセスメントできることも必要と思われた。

##### 3) アセスメントの訓練をする

統合失調症に対する神経学的認知機能および社会的認知機能のアセスメントを、ツールを用いて実践できることは重要である。ただし、訪問看護の場面にそぐう、簡便なアセスメントツールを選択することが重要である。

##### 4) アセスメントと実践とを結び付ける

アセスメントの結果と利用者の希望を踏まえた看護計画を立案し、実践に結び付ける必要がある。また、アセスメントを慢性精神障害をもつ利用者に行う以前に、如何に援助関係を構築するかも重要である。看護師の援助への態度形成に基づき、アセスメントや実践を進めていくことを教育していくことも重要である。

##### 5) 利用者へのケアの効果の評価方法を検討する

大学院在宅看護専門看護師課程の学生や、精神科訪問看護の従事者が、在外研究の学びを取り入れた教育を受けた場合、利用者へのケアの効果をどのように評価するかを検討する必要がある。そのための測定用具の選択など、今後研究活動を通して明らかにしていきたい。

#### 謝辞

上月先生とは、在外研究を終えてからも相互の連絡が続いており、認知機能の測定方法やケアの方法の勉強会を帰国時に開催したり、メールで情報をいただいたりしています。多くの学びを得る機会を作っていたいただき、ありがとうございました。今後も学びを継続していきたい、大学院在宅看護専門看護師課程や、精神科訪問看護を提供している看護師へ伝えていきたいと考えています。

また、就職して2年たたないのに、本学の教職員の皆様に在外研究員として認めていただきました。本当に、これから一生ないような、貴重な出会いと機会を得ることができました。ここに御礼を申し上げます。ありがとうございました。本研究は平成27年度在外研究として実施しました。

#### 利益相反

本研究における利益相反はない。

#### 引用文献

- American Association of Colleges of Nursing (2004) : AACN Position Statement on the Practice Doctorate in Nursing October 2004  
<http://www.aacn.nche.edu/DNP/DNPPositionStatement.htm>.2016年11月28日検索.
- American Association of Colleges of Nursing (2006) : The Essentials of Doctoral Education for Advanced Nursing Practice. 2016年9月26日検索.  
<http://www.aacn.nche.edu/dnp/Essentials.pdf>.
- American Association of Colleges of Nursing (2015) . DNP Fact Sheet. 2016年9月26日検索.  
<http://www.aacn.nche.edu/media-relations/fact-sheets/>

dnp.

American Nurses Association (2013). Employment and Compensation Estimates for RNs and Selected APRNs, 2013, USA Total and States. 2016年9月26日検索.

<http://www.nursingworld.org/MainMenuCategories/ThePracticeofProfessionalNursing/workforce>.

厚生労働省 (2002). 「精神保健医療福祉の改革ビジョン」について. 2016年9月23日検索.

<http://www.mhlw.go.jp/topics/2004/09/tp0902-1.html>.

National Association of Clinical Nurse Specialists. 2016年9月26日検索.

<http://www.nacns.org/html/cns-faqs1.php>.

日本訪問看護財団. 訪問看護等、財団を巡る動向. 2016年9月23日検索.

<http://www.jvnf.or.jp/gaiyo/chronicle.html>.

(受付：2016.9.28：受理：2016.12.20)

